

# 板リハ通信

2014年 秋・冬号  
vol.5

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

## 基本理念

- ・事故のない医療
- ・説明と同意の医療
- ・快適で清潔な医療
- ・地域に根差した医療

## 病院長挨拶

第47回衆議院議員選挙が12月14日(日)に行われた。自民党の圧勝で終わった。戦後最低の得票率であった。昔は選挙速報にかじりついてみたものだが、自民党にとって戦う相手のいない総選挙であったので、ほとんど見る事なく早く寝てしまった。

今年も全職員の協力のもと、無事終わろうとしている。

平成24年1月、板リハ着任時の朝礼で3つの事を宣言した。稼働率を上げること、運動会で優勝すること、気持ちよく働くこと。そしてやっと今年、第53回イムス大運動会Cブロックで念願の優勝を果たせた。身体能力の高い一部の職員だけが選手なのだが、多くの職員が仕事の後の練習、練習の応援に参加し、裏方の努力もあり、多くの問題を乗り越えながらの優勝であった。ワン板リハのもとIMSspiritである協調、協力、競争をこの大会で見せてくれたと思う。今後は気持ちよく働ける職場作りに、このエネルギーをいただき知恵を絞って力を注ぎたいと思う。

先日、院内でナラティブ、看護を語ると題して、1年目の看護、介護の職員の発表会があった。ナラティブとは「物語、話」と訳され、ナレーションの語源でもある。患者さんとの関わりで実感したことを自分の言葉で伝えていたが、皆、立派だった。問題から患者さんを見るのではなく、原因は何か、誰にとっての問題かなど、難しい問題に新人が汗をかき、患者さん方とのコミュニケーションを確立している姿を見た。ややもすれば初心を忘れがちな私にも大いに自分を省みる会であった。



病院長 渋谷正直

## 海外からのお客様

喜緑(ヒョン)病院の皆様をお出迎えいたしました!

2014.秋

お迎え

エントランスにて

喜緑(ヒョン)病院の皆様をお出迎えいたしました。



会議室にて

まずはじめに、会議室にて当院の概要、全国の回復期リハビリテーション病棟・病院の中でも1割程度しか行っていない、心臓リハビリテーション(板リハ通信Vol3にて詳しく紹介しています)、そして、当院のリハビリテーション理念を紹介させていただきました。

お見送り

再びエントランスにて

最後は、当院の職員が両国の国旗を持って、お見送りいたしました。



再び会議室にて

皆で記念写真を撮りました。日本で写真を撮る際に一般的な「ハイ、チーズ」は韓国では「ハナ、トゥル、セ!」と言われるのでしょうか? いずれも、そのように言われていたように思います。皆様良い笑顔です。



ハナ、トゥル、セ!

リハビリ訓練室にて

次に、当院のハード面を紹介し、より具体的に、当院で行っているリハビリテーションをご紹介いたしました。



## 復職支援説明会

看護師・  
准看護師  
対象



現場復帰を考えている方、迷っている方、不安がある方、まずはご連絡ください!

日時: 第3水曜日 9:30~12:00

場所: イムス板橋リハビリテーション病院  
会議室 病棟

参加費用: 無料

内容: 注射、採血、急変時の対応方法  
病院事情などを説明します

必要物品: 上履き(運動靴)

動きやすい服装(スポン着用)

問合わせ: イムス板橋リハビリテーション病院  
03-3967-1183(担当/採用係)

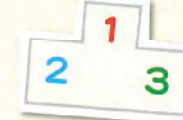
薬剤師の方の復職支援も行っております。随時  
行っておりますので、お気軽にお問合せください

## 第53回 IMS大運動会にて

Cブロック優勝

今年で53回目となる、IMS大運動会において、Cブロック優勝をはしました。当院としては、はじめてのブロック優勝です。

※最も規模の大きなAブロックからFブロックまで、近年では総勢5,000人以上の職員が一同に介して行われるIMS大運動会では、日々の練習から本番にいたるまで、真剣に取り組み、チーム医療向上に努めております。



イムス  
IMSグループ 医療法人社団 明芳会  
イムス板橋リハビリテーション病院

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢3丁目11番1号  
TEL:03-3967-1183 FAX:03-3967-1184  
http://www.ims.gr.jp/itariha/



フェイスブックはじめました。  
「イムス板橋リハビリテーション病院」で検索してください。



都営三田線  
「志村坂上駅」A3出口から  
徒歩約7分  
「成増駅」「赤羽駅」からも  
バスでお越しいただけます。  
「志村坂下下車」

# 生活機能再建型 短期集中上肢機能外来

## ボツリヌス療法

また箸を使いたい。この手を使って料理がしたい。またゴルフに行きたい。そんな気持ちを持つことはごく自然なことです。これを支援するためにこのような外来を開始しました。

この特殊外来は脳卒中などにより麻痺した手を生活上で使うようにするもので、1ヶ月間、月～金まで毎日行います。1日には1時間の自主トレーニング、2時間の作業療法を計3時間行います。担当は技士長及び4名の作業療法士がチームで行います。

この練習方法はCI療法(Constraint induced movement therapy)というものを基に考えられています。従来のリハビリでは手の練習をしても、リハビリが終了してしまおうと悪くなるのがよくありました。この方法は生活で手を使うことを学び、実際に使用することにより、その後リハビリが終了後も改善していくことが示されています。尚、この方法は全ての人が良くなることを保証するものではありませんが、現在、世界中で最も効果のある麻痺手の練習方法だと言われております。

### 内容

#### ①面接

ご自身がやりたい、困っている生活上の意味のある活動についてお聞きします。それを作業療法士と協議しながら目標として挙げて達成していきます。

#### ②検査

手がどれくらい動くか、生活でどれくらい使用しているかを検査します。

#### ③練習

症状に合わせて、装置や電気刺激装置を利用します。基本的に自分の手を使って課題を練習します。特徴的な練習には課題指向型訓練があります。これは、包丁を使ってみたり、箸を使ってみたり、目標で挙げた活動など、実際の生活上の活動を利用した練習方法で、この治療法の鍵となる部分です。また、手の使用に関する宿題や日記もつけて頂きます。



ボツクス注射を行う。おむとに電気刺激をかん、リハビリを行う等があります

マッサージやベッドで横になることは基本しません。「治してもらう」ではなく「治る」という御自身の主体性と共に、生活上で使うという強い意志が必要になります。現在は1ヶ月に1名のみ受け入れており、多数の場合は予約ということになります。

## ? よくある質問 ?

### Q. 病気になってから長くても効果はあるのですか?

これまでのリハビリテーションでは病気になってから半年経過すると手は治らないと言われていました。しかし、現在では半年以上経過しても手の動きが徐々に改善する可能性があることが明らかになっています。この外来でも、半年以上経過した方の動きが改善し、生活で使用する範囲が多くなったという良好な結果を残しています。

### Q. 誰でも参加できるのですか?

誰でも参加できるというわけではありません。基準にあった方が対象となりますが、一部を以下に示します。

- 基本的に寝る方
- 指を軽く伸ばせる方、手首を軽くそらせる方
- 関節が固くなり制限が無い、または強い痛みが無い方。

※麻痺が重度であってもボツクス注射を打ち交差することはありません。

### Q. ボツクスとは?

脳卒中の後になると、手足の力が抜けていくという症状があります。ボツクスとはこのような症状を軽減するために薬を筋肉に注射する治療法です。当院では非常勤の丹下先生が資格を持っていらっしゃいます。高価な治療法ですが、身体障害者手帳を持っている方は料金が戻ってくる場合があります。



ボツクス注射を行うところ

他にも細かい点がございますが、ご興味のある方はリハビリテーション科までお問い合わせください。

# 研修医

～指導に力を入れてます～



遠藤宗幹 医局長 心臓リハビリテーション科部長

## 研修医指導と研修医満足度

板橋中央総合病院研修医プログラムの地域医療研修の一環として、当院はリハビリテーション部門の研修を担っています。毎年12名の研修医(2名/月で6ヶ月間)を受け入れ始めてから5年が経ち、今年度からより充実したカリキュラム内容に変更致しました。

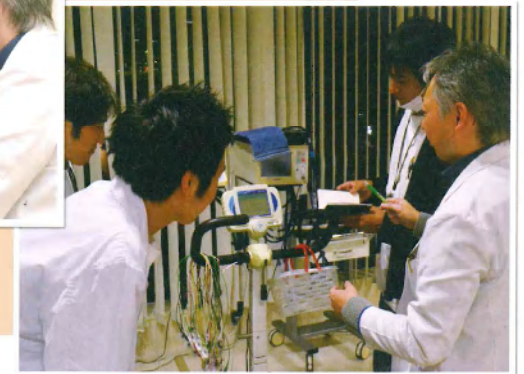
当院のリハビリテーションマインドは、①医療者の守備範囲を守るのではなく、患者本位のチーム医療の中で共通の目標に向かってリハビリテーションの専門性を発揮する、②患者の自己決定権を尊重もしくは、患者や家族と情報の共有や共同決定を通して協力・信頼関係を築いていく、ことなどに重きを置いています。

研修目的は、見学、体験、講義などを通じて、研修医が「自分が目指す今後の医療にリハビリテーションを活かせるように考え、そして学ぶ事」です。研修期間は2週間と短いです。内容はリハビリテーション総論、各論としては脳血管疾患リハビリテーション、心臓リハビリテーション、呼吸器疾患リハビリテーションや、理学療法、作業療法、言語療法、訪問リハビリテーションの役割や効果など多岐にわたります。

また、医療のテクニカルな面だけの研修では終わりません。院長茶話会を通して、医療人としての心構えや人格形成の一助となるような人間教育論に花を咲かせる事も出来、研修医から好評を得ています。

経験豊富な高い専門性を持った医師7名と上級技士4名を中心に指導を行っていますが、研修内容が研修医にとって役立つものとして伝わっているのか、担当者からの一方通行になっていないかなどは、我々には見えにくいところ。そこで、研修医自身に指導内容毎に点数での評価をしてもらい、今後のより良い研修内容のための判断材料の一つとしています。また、この研修期間を通して学んだ事、感じた事、改善点や気付いた事などを総括レポートとして提出してもらい、我々担当者の励みや反省、自己研鑽の糸口として活用しています。

このような研修医カリキュラムに変更し、今年度の当院研修が終了しました。結果、当院指導者(院長を含め11名)に対する研修医満足度は、平均86.4%でした。来年度は、さらに質の高い指導を目指し、担当者一丸となって精進して参ります。



## 🏆 AMPS認定評価者 🏆

AMPS(アンブス)とは着替えや料理など日常生活の動作を通して、効率のいいやり方や動作の能力を観察する作業療法特有の評価法です。AMPSの結果は、リハビリの介入方法や退院後に地域で自立して生

活できるかの予測に役立ちます。AMPSを行うためには、講習や試験を受け認定されることが必要であり、当院には認定された評価者が22人(当院作業療法士のおよそ半数)在籍しています。

